図書出版
和泉書院
IZUMI SHOIN

2022 年 9 月
https://www.izumipb.co.jp

日本史研究会会員限定
2022 年秋新刊のご案内

日本史研究会会員の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。この度は
書籍展示会場でお会いできず誠に残念ですが、このような形で
新刊のご案内をいたしたく存じます。
お忙しい中とは存じますが、ご注文をお待ちしております。

◆ 期限 ◆

2022 年 10 月 31 日（月）まで

◆ ご注文方法 ◆

- お電話・FAX・メール・小社 HP よりご注文ください。
- お送り先のお名前、ご住所、お電話番号をお知らせください。
- 公費、私費の区別をお知らせください。
- 公費の場合、公文書の宛名、納品書・見積書・請求書の部数、日付の有無をお知らせください。

◆ お支払い方法・送料 ◆

- 同梱いたします郵便振替用紙でお支払いください。
- 書籍はクロネコヤマト宅急便でお送りいたします。
- 書籍代定価合計 3,300 円（10%税込）未満→送料・手数料 500 円（10%税込）
- 書籍代定価合計 3,300 円（10%税込）以上→送料・手数料無料

今回掲載の書籍以外もご注文いただけます。
日本史研究会会員である旨を必ずお知らせください。

TEL　06-6771-1467 ／ FAX　06-6771-1508
メールアドレス　info@izumipb.co.jp
営業担当：廣橋まで

図書出版 和泉書院 IZUMI SHOIN

2022年秋 日本史研究会オンライン書籍展示専用ご注文書

※赤字は刊行日より１年以内の新刊
※和泉コードをクリックで、書誌詳細ページへリンクします。
※価格は10%税込

和泉コード	書名	著者名	価格	冊数	
定期・不定期刊行物					
2701	新訂 吾妻鏡一 頼朝将軍記１ 治承四年（1180）～元暦元年（1184）	高橋秀樹編	4,290		定期予約受付中 パンフレット
2702	新訂 吾妻鏡二 頼朝将軍記２ 文治元年（1185）～文治三年（1187）		4,290		
2703	新訂 吾妻鏡三 頼朝将軍記３ 文治四年（1188）～建久二年（1191）		4,730		
2704	新訂 吾妻鏡四 頼朝将軍記４ 頼家将軍記 建久三年(1192)～建仁三年(1203)		4,730		
2801	歌舞伎評判記集成　第三期　第一巻 自安永二年　至安永四年	役者評判記刊行会編	16,500		定期予約受付中
2802	歌舞伎評判記集成　第三期　第二巻 自安永五年　至安永七年		17,600		
2803	歌舞伎評判記集成　第三期　第三巻 自安永七年　至安永十年		16,500		
2804	歌舞伎評判記集成　第三期　第四巻 自安永十年　至天明四年		16,500		
2805	歌舞伎評判記集成　第三期　第五巻 自天明四年　至天明六年		17,600		
2310	四部合戦状本平家物語全釈　巻十	早川厚一・佐伯真一・生形貴重校注	15,400		
2311	四部合戦状本平家物語全釈　巻十一		16,500		
2312	四部合戦状本平家物語全釈　巻十二		12,100		
51004	大乗院寺社雑事記研究論集　第四巻	大乗院寺社雑事記研究会編	7,700		
51005	大乗院寺社雑事記研究論集　第五巻		8,800		
日本史研究叢刊					
50019	大塩平八郎と陽明学	森田康夫著	8,800		
50020	中世集落景観と生活文化 阿波からのまなざし	石尾和仁著	8,800		
50021	大塩平八郎の総合研究	大塩事件研究会編	9,900		
50025	玉葉精読 元暦元年記	高橋秀樹著	11,000		
50026	中世説話の宗教世界	追塩千尋著	7,700		
50027	近世の豪農と地域社会	常松隆嗣著	7,480		
50030	正倉院文書の歴史学・国語学的研究 解移牒案を読み解く	栄原永遠男編	13,750		
50031	日本の近世社会と大塩事件	酒井一著	11,000		
50032	中世・近世堺地域史料の研究	矢内一磨著	9,350		
50033	古墳と池溝の歴史地理学的研究	川内眷三著	9,900		
50034	豊臣政権の形成過程と大坂城	中村博司著	8,500		
50035	日本古代の思想と天皇	水谷千秋著	9,350		
50036	難波宮と大化改新	大阪市立大学難波宮研究会編集	7,920		
50037	奈良平安時代史の諸問題	木本好信著	5,830		
50038	徳島地方史研究会創立50周年記念論集　阿波・歴史と民衆Ⅴ 地域社会と権力・生活文化	徳島地方史研究会編	8,800		
50039	記紀氏族伝承の基礎的研究	生田敦司著	6,600		
50040	『台記』注釈　久安六年	原水民樹著	8,800		
50041	鎌倉殿祭祀の歴史的研究 鎌倉幕府の将軍と家政	竹ヶ原康弘著	6,820		
50042	歴史学としての日本音楽史研究	福島和夫・上野学園大学日本音楽史研究所編	16,500		
50043	難波古代史研究	栄原永遠男著	8,800		
50044	『吾妻鏡』の合戦叙述と〈歴史〉構築	藪本勝治著	6,600		
50045	奈良時代貴族官人と女性の政治史	木本好信著	6,380		
研究叢書					
23472	鷹書の研究 宮内庁書陵部蔵本を中心に	三保忠夫著	30,800		パンフレット
23497	中世の戦乱と文学	松林靖明著	14,300		
23507	仮名貞観政要梵舜本の翻刻と研究	加藤浩司編著	13,750		
23516	『後二条師通記』論 平安朝〈古記録〉というテクスト	中丸貴史著	9,350		
23520	南北朝軍記物語論	大坪亮介著	13,200		
23525	挿絵解釈の研究『大坂物語』を中心に	位田絵美著	9,900		
23533	石水博物館所蔵　小津桂窓書簡集 書簡画像ＤＶＤ付録	菱岡憲司（責任編集）・髙倉一紀・浦野綾子編	7,700		
23534	修験の縁起の研究 正統な起源と歴史の創出と受容	川崎剛志著	6,600		
23537	萬葉風土歌枕考説	廣岡義隆著	12,650		
23538	校訂『太平記要覧』付、『太平記』章段別参考文献	長坂成行編著	8,800		

23540	狂言作品研究序説 形成・構想・演出	稲田秀雄著	13,750		
23543	謡の家の軌跡 浅野太左衛門家基礎資料集成	大谷節子編著	13,200		
23546	風土記考説	廣岡義隆著	13,750		
23548	古代における文字文化と数量表現	三保忠夫著	11,000		
和泉選書					
24179	大化の改新は身近にあった 公地制・天皇・農業の一新	河野通明著	3,630		
24180	日野昭論文集Ⅰ　日本書紀と古代の仏教	日野昭著	3,300		
24187	日野昭論文集Ⅱ　日本古代の氏族と宗教		4,070		
24193	歌詠む神の中世説話	橋本正俊著	3,850		
24194	無住の著作総合索引	追塩千尋編著	3,850		
24196	古典落語の史層を掘る	高島幸次著	2,860		
索引叢書					
25053	公卿補任記事編年索引 文武四年―仁和三年八月	笠井純一編	9,350		
上方文庫・上方文庫別巻シリーズ					
34203	『河内名所図会』『和泉名所図会』のおもしろさ	森田恭二編著	2,530		
34205	『大和名所図会』のおもしろさ		2,530		
34206	秀吉と大坂 城と城下町	大阪市立大学豊臣期大坂研究会編・大澤研一・仁木宏・松尾信裕監修	3,630		
単行本・他					
2504	伊藤正義中世文華論集 第四巻 文学史と思想史の間	片桐洋一・信多純一・天野文雄監修 阿部泰郎・寺島修一編	16,500		
27012	紫式部日記	笹川博司校注	8,250		
42055	日本古典書誌学総説	藤井隆著	2,200		
44113	春日権現験記絵注解	神戸説話研究会編	22,000		パンフレット
44146	地域文化の歴史を往く 古代・中世から近世へ	鶴﨑裕雄編	11,000		
44154	延喜式祝詞（付）中臣寿詞	粕谷興紀注解	4,950		
44150	下里知足の文事の研究 第一部 日記篇	森川昭著	25,300		パンフレット
44163	下里知足の文事の研究 第二部 論文篇・第三部 年表篇		19,800		パンフレット
44171	河内古文化研究論集　第二集	柏原市古文化研究会編	6,380		
44180	古代日本語をよむ	奥村悦三著	3,520		
44183	河川漁撈の環境民俗学 淀川のフィールドから	伊藤廣之著	3,850		
44189	はじめての古筆切	日比野浩信著	1,980		
44190	古浄瑠璃・説経研究 近世初期芸能事情 上巻　街道の語り物	阪口弘之著	13,200		パンフレット
44191	古浄瑠璃・説経研究 近世初期芸能事情 下巻　近世都市芝居事情		14,300		
44178	和漢古典植物名精解	木下武司著	19,800		パンフレット
44192	続和漢古典植物名精解		25,300		
52003	新訂 吉記　本文編一	髙橋秀樹編	7,700		三巻品切
52004	新訂 吉記　本文編二		9,900		
52006	新訂 吉記　索引・解題編		9,900		
64007	和名類聚抄地名新考 畿内・濃飛	工藤力男著	3,300		
64009	太虚と公正無私の世界 近代を拓く大塩思想	森田康夫著	4,950		
66005	和歌の浦・玉津島の歴史 その景観・文化と政治	藤本清二郎著	2,200		
83002	万葉歌木簡を追う	栄原永遠男著	1,980		

※リストに無い書籍もご注文いただけます。こちらにご記入ください。

お送り先　〒　　―

(ふりがな)
お名前

TEL

公費 □
右側もご記入ください

私費 □

見積書　　通　日付：不要・要　（　　年　　月　　日）
納品書　　通　日付：不要・要　（　　年　　月　　日）
請求書　　通　日付：不要・要　（　　年　　月　　日）

公文書の宛名

和泉書院
☆新刊のご案内☆

皇位継承をめぐる政争の真相に迫る

日本史－古代
（奈良時代）

定価 6,380 円（10%税込）
（本体 5,800 円）
A5 上製・280 頁
2022 年 10 月刊行
日本史研究叢刊 45

木本好信

奈良時代貴族官人と女性の政治史

奈良時代には幾度もの政争が繰り返されたが、その要因はいずれも皇位継承を要因とするものであった。そのような政治推移のなかでの、藤原不比等と天武諸皇子との権力闘争にあって父不比等に尽力する四子の実態、長屋王打倒の主導は藤原武智麻呂で房前は不関与だとする論証や橘奈良麻呂の変での密告を詳細に分析して、これら政争の真相に迫る。また光明皇后の政治的領導性を実証し、孝謙女帝と異母妹不破内親王・志計志麻呂母子との相克、そして桓武天皇の擁立めぐっての藤原式家と井上皇后・他戸皇太子母子との、桓武と不破・川継母子との抗争を検討し、井上・不破の母県犬養広刀自と県犬養橘三千代の関係など女性の政治動向にも焦点をあわせて考察する。

第一部　奈良時代の貴族官人
第一章　藤原不比等と四子
一　不比等政権の成立過程
二　武智麻呂の式部卿、房前の参議朝政
三　宇合と按察使の創設
四　麻呂と養老改元
第二章　長屋王の変の首謀者
―藤原武智麻呂ら陰謀説の否定に答える―
一　武智麻呂について
二　房前について
三　麻呂について
第三章　山背王について―生年と命名の検討―
一　その生年
二　その命名
第四章　橘奈良麻呂の変の密告について
一　橘奈良麻呂の変密告史料
二　橘奈良麻呂の変密告の検証
第五章　県犬養佐美麻呂と橘奈良麻呂の変についての試論
一　県犬養佐美麻呂の出自
二　橘諸兄と県犬養石次、奈良麻呂と佐美麻呂
第六章　塩焼王についての考察
一　出生と不破内親王
二　伊豆国三島への配流
三　復帰と橘奈良麻呂の変前後
四　藤原仲麻呂の内乱と敗死
第七章　吉備真備らの文室浄三擁立寸考
一　真備の浄三擁立
二　浄三の推戴固辞
第八章　五百枝王と『萬葉集』―再び最終編纂者試論―
一　安田・大森説と先論の論拠
二　巻八の志貴皇子の歌

第二部　奈良時代の女性
第一章　光明皇太后の政治的思惑―藤原仲麻呂との合意と乖異―
一　淳仁天皇の擁立をめぐって
二　橘奈良麻呂の変をめぐって
第二章　県犬養橘三千代と県犬養広刀自
一　三千代の出自と出生
二　広刀自の出自と出生
第三章　橘佐為の娘たち
―古那可智・麻都我姉妹の政治動向を中心に―
一　佐為の娘たち
二　古那可智について
三　麻都我について
第四章　井上内親王について
―聖武天皇々女と奈良朝政治史の動向―
一　生年と伊勢斎宮
二　白壁王との結婚と藤原仲麻呂政権
三　井上内親王の立后と巫蠱事件
第五章　不破内親王寸描―生年と親王籍剝奪―
一　出生について
二　不破内親王の属籍剝奪
三　塩焼王の配流と不破内親王
第六章　藤原房前の娘と藤原百能―藤原豊成をめぐる双曲線―
一　藤原豊成の妻室
二　房前の娘と百能の立場
あとがき

◆著者紹介
木本好信（きもと・よしのぶ）
駒澤大学大学院人文科学研究科日本史学専攻博士後期課程単位修得満期退学。
博士（学術）。
山形県立米沢女子短期大学教授、甲子園短期大学学長、龍谷大学文学部教授を歴任。
主著　『奈良時代の政争と皇位継承』（吉川弘文館）、『藤原種継』（ミネルヴァ書房）、『奈良平安時代の人びとの諸相』（おうふう）、『藤原南家・北家官人の考察』（岩田書院）、『奈良平安時代史の諸問題』（和泉書院）他多数。

注文書
貴店番線印
『奈良時代貴族官人と女性の政治史』
定価 6,380 円（10％税込）　ISBN 978-4-7576-1047-7
冊
お名前・御住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

古代難波について
文献史学の立場から根本的に考え直す！

日本史―古代

難波古代史研究

栄原永遠男 著

定価 8,800 円（10%税込）
（本体 8,000 円）
A5 上製・384 頁
2022 年 7 月下旬刊行
日本史研究叢刊 43

◆古来、難波地域は各時期の王権と密接に関係し、そのため多くの研究が積み重ねられてきた。
◆本書では、古代難波に関する重要な諸問題について、文献史学の立場から、考古学的成果を吸収しつつ、根本的に考え直した。

内容目次

前編　難波宮前史と前期難波宮の時代

第一章　難波屯倉と古代王権
―難波長柄豊碕宮の前夜―
はじめに／「饗丁」と「饗」／三嶋竹村屯倉と「饗丁」／難波屯倉／むすび

第二章　難波宮跡北西部出土木簡の諸問題
はじめに／発掘調査の経緯と木簡の出土／出土木簡の観察／難波宮跡北西部出土木簡の問題点／むすび

第三章　難波宮跡北西部出土木簡再考
はじめに／「木簡群」の一括性／荷札木簡の検討／廃棄と投棄の時期／むすび

第四章　孝徳紀に見える諸宮
―二段階造営説の再検討―
はじめに／小郡宮の現地比定／小郡宮と子代離宮／小郡宮の改作と蝦蟇行宮・朝庭／小郡宮の礼法／子代離宮／難波長柄豊碕宮の造営工事と遷都／難波長柄豊碕宮の造営／むすび

第五章　天武天皇の複都制構想
はじめに／複都制の詔とその後／研究史の整理と検討／天武天皇の複都制構想／複都制から七道制へ／むすび

後編　後期難波宮の時代

第六章　「複都制」再考
はじめに／「京」と「都」「皇都」／「都」の変遷／むすび／複都制関係主要文献

第七章　聖武天皇の印南野行幸と難波宮の造営
はじめに／聖武天皇即位初期の行幸／印南野行幸と難波宮行幸／中大兄皇子の豊旗雲の歌／印南野の柏／印南別嬢の伝承／むすび

第八章　古代における難波地域の性格
はじめに―問題の限定―／後期難波宮の性格／摂津関の性格／むすび―古代難波地域の性格―

第九章　難波宮の造営と材木の供給
はじめに／古代における材木の採取と輸送／播磨国の材木と難波／播磨国・西摂地域における材木の産地／播磨国・西摂地域から難波への材木輸送／むすび

第一〇章　後期難波宮の内実
はじめに／大粮申請文書についての予備的検討／中央官司の構成員と後期難波宮／後期難波宮・京における官司・家の存在形態／発掘調査成果との比較／むすび

第一一章　古代難波の荘と物流
―難波地域史の試み―
はじめに／朴消を練る／難波堀江両岸の荘／難波の市／市指図の検討の成果と難波市南道／『日本霊異記』上巻第三五縁と『難波市』／難波における二つの市―難波地域史の試み―

第一二章　難波真人高屋について
はじめに／難波高屋に関する史料／難波高屋の位階と官職／難波高屋のカバネ真人／むすび

付編　和泉と紀伊

第一三章　海会寺の造営と和泉・紀伊
はじめに／先行研究の検討／泉南地域の歴史的特質／日根地域の氏と郡司／海会寺の造営と造営氏族／むすび

第一四章　岩橋千塚と紀直
はじめに／古墳時代前期の倭王権と紀伊／古墳時代中期の倭王権と紀伊／古墳時代後期の倭王権と紀伊／むすび

あとがき

索引
事項
歴史上の人物・氏
書名・史料名
研究者名

栄原永遠男（さかえはら とわお）
東大寺史研究所所長・東大寺学術顧問、大阪歴史博物館名誉館長、大阪市立大学名誉教授、京都大学博士（文学）
著書・論文　『万葉歌木簡を追う』（和泉書院、2011年1月）／『正倉院文書の歴史学・国語学的研究―解移牒案を読み解く―』（編著、和泉書院、2016年6月）／「月借銭解に関する基礎的考察」（『正倉院紀要』40、2018年3月）／「「行基集団」の活動の歴史的展開」（『論集 東大寺と行基菩薩』2020年12月）

注文書
貴店番線印
『難波古代史研究』
定価 8,800 円 (10% 税込)　ISBN 978-4-7576-1041-5　冊
お名前・御住所・TEL
図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

不審のまま放置されている
数量表現の打開案を模索する

日本文学―上代
日本語学
―文字・表記

定価 11,000 円（10%税込）
（本体 10,000 円）
A5 上製・432 頁
2022 年 8 月下旬刊行
研究叢書 548

古代における文字文化と数量表現

三保忠夫 著

◎出雲の田和山遺跡出土の硯破片の年代、卑弥呼が魏の新帝斉王芳に献上した祝賀の「班布」、『日本書紀』巻一四の「馬八匹」に対応する歌謡の「耶都擬」の読み方などについて再検討する。

内容目次

はしがき
第一部　古代における文字文化
田和山遺跡の方形板石硯――弥生時代中期後半～後期初／後漢への朝貢――一世紀／邪馬台国の卑弥呼――三世紀半ば／神功皇后――四世紀半ばから五世紀／仁徳天皇――五世紀半ば頃／欽明・敏達天皇――六世紀半ば～後半、及び、七世紀
第二部　馬の伝来とその数え方
第一章　馬の伝来
倭国の馬／応神天皇一五年、百済は「良馬二匹」を貢ぐ／馬具類の出土／おわりに――「むまき（牧）」／［参考］馬の種類・価格について
第二章　馬の数え方――「匹（ヒキ）」
馬を数える「匹（疋）」／「ヒキ」は、和語か／「ヒキ（ヘキ）」は、漢語か／「佐伯」の語源／［補説1］大字について／［補説2］百済の官位「佐平」について／［補説3］現代における地名・氏姓の「佐伯（さえき）」と「佐伯（さいき）」
第三章　『日本書紀』歌謡の「耶都擬（やつぎ）」
写本類――「馬八匹（疋）」、「擬」／注釈書『釈日本紀』／『日本書紀』版本／先学の注釈／「八毛」の意味／［参考］仮名「擬（ギ）」（乙類）について
余論　「篳篥（ヒチリキ）」について
「篳篥（ピリ）」――その発祥地と音色／南朝の伎楽（呉楽）／雅楽について
第三部　『日本書紀』の数量表現
第一章　『日本書紀』の数量表現
数量表現について／助数詞表現について
第二章　『釈日本紀』の数量表現
『釈日本紀』について／助数詞表現について／助数詞・単位の分類／数詞表現について
余論　『日本書紀私記』御巫清白氏蔵本の助数詞表現
御巫清白氏蔵『日本書紀私記』とその助数詞／『日本書紀私記』丙本の助数詞
索引　書名／人名／事項
あとがき

三保忠夫（みほ ただお）
1975年　広島大学大学院文学研究科博士課程退学
島根大学教授・神戸女子大学教授を経て、現在、島根大学名誉教授・神戸女子大学名誉教授、博士（文学）
〔主要著書〕
『鷹書の研究　宮内庁書陵部蔵本を中心に』／『雲州往来　享禄本 本文』（共編）／『雲州往来　享禄本 研究と総索引　本文・研究篇』（共編著）／『雲州往来　享禄本 研究と総索引　索引篇』（共編著）（以上和泉書院）
『日本語助数詞の歴史的研究　近世書札礼を中心に』（風間書房）／『数え方の日本史』（吉川弘文館）／『鷹狩と王朝文学』（吉川弘文館）／『尺牘資料における助数詞の研究　明国から日本へ』（武蔵野書院）

注文書
貴店番線印
『古代における文字文化と数量表現』
定価 11,000 円（10% 税込）　ISBN 978-4-7576-1044-6　冊
お名前・御住所・TEL
図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

藤原頼長が政権掌握に向けて
大きく踏み出す激動の一年

日本史―古代
（平安時代末期）

定価 8,800 円（10%税込）
（本体 8,000 円）
A5 上製・404 頁
2021 年 11 月刊行
日本史研究叢刊 40

原水民樹 著

『台記』注釈 久安六年

研究者のみならず、歴史・文学愛好家の要望に応える。

保元の乱に敗死した藤原頼長の日記『台記』は、別記・抄本を含めて保延二年から久寿二年までが断続して残る。

久安六年は異母兄の関白忠通との対立が決定的になった年であり、その間の事情を記す『台記』の叙述は、歴史小説のように劇的で生彩を放つ。

本書は、校訂本文を基に書き下し文を作成、基本的な語についても注釈を施し、人物解説や一年間の記事の要目を付した。

内容目次

凡例
解説
久安六年記要目
書き下し文並びに注釈
語注
人物解説
本文
各氏略系図
使用した史・資料
あとがき

【本書の特徴】

本文　著者架蔵本を底本とし、十三部の写本その他によって校訂した。

書き下し文並びに注釈　漢字には適宜振り仮名を付け、句読点を施し、官職名で記される人物には行間に姓名を付した。注釈では語句の説明や考証を行い読解の便とした。

語注　複数回使用の語句を五十音順に配列し説明を行った。

人物解説　久安六年に記される人物を五十音順に配列し解説、各項目末に、掲出の月日条を記した。

原水民樹（はらみず　たみき）
1969 年、大阪教育大学卒業。1973 年、名古屋大学大学院文学研究科博士課程中途退学。
現在、徳島大学名誉教授。
主要著書　『『保元物語』系統・伝本考』（和泉書院　2015 年）

注文書

貴店番線印

『『台記』注釈　久安六年』
定価 8,800 円 (10% 税込)　ISBN 978-4-7576-1011-8　冊

お名前・御住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL　06-6771-1467
FAX　06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

読み本系『平家物語』に初めての詳注

日本文学―中世
軍記物語

定価 12,100 円（10%税込）
（本体 11,000 円）
A5 上製・384 頁
2022 年 10 月上旬刊行

四部合戦状本 平家物語全釈

早川厚一 佐伯真一 校注 生形貴重

【全十二巻】第六回配本

巻十一

これまでほとんどの注釈の底本とされてきた語り本に比べ、より多く古態をとどめるが、真名表記のために読解に苦しむことの多かった四部合戦状本の本文を、慶応義塾図書館本をそのままに翻刻した【原文】、仮名交じりに書き下した【釈文】、昭和女子大本などの他本との校異や訓読上の問題を扱う【校異・訓読】の三つの欄によって、精密にかつ読みやすく提示する。【注解】では、延慶本などの他諸本との比較検討により、物語の古態・原態に迫ると同時に、これまでの『平家物語』研究の成果を、歴史学などの隣接諸学を含めて通観しつつ注釈に生かし、現在の最高水準の注釈をめざす。

◆校注者略歴
早川厚一（はやかわ・こういち）
名古屋学院大学名誉教授
佐伯真一（さえき・しんいち）
青山学院大学名誉教授
生形貴重（うぶかた・たかしげ）
千里金蘭大学名誉教授

◆巻十二内容

はしがき
凡例
大地震
建礼門院吉田に御坐す事
源氏六人受領の事
建礼門院御歎き
平大納言等配流
建礼門院大原入御
頼朝追罰の宣旨
堀川夜討
範頼誅せらるる事
菊池次郎高直斬らるる事
判官都落
義経追討院宣
時政上洛の事
吉田大納言の沙汰
平家の子孫多く失はるる事
六代被捕（①六代連行）
六代被捕（②母の嘆き）
六代被捕（③文覚登場）
六代被捕（④文覚関東下向）
六代被捕（⑤白馬の夢）
六代赦免（①六代関東下向）
六代赦免（②赦免）
六代帰洛（①大覚寺へ）
六代帰洛（②長谷寺へ）
兼実摂籙の事
六代御前、高野・熊野詣
平家の侍共の事
丹後侍従忠房誅たるる事
伊賀大夫知忠誅たるる事
越中次郎兵衛盛次誅たるる事
土佐守宗実最期
行家・義憲最期
頼朝右大将
薩摩家祐誅たるる事
上総七郎兵衛景清干死
文覚流罪
六代斬られ

【既刊ご案内】

巻六 …… 定価八、八〇〇円
巻七 …… 定価一二、一〇〇円
巻九 …… 定価一六、五〇〇円
巻十 …… 定価一五、四〇〇円
巻十一 …… 定価一六、五〇〇円
次回配本 …… 灌頂巻

注文書
貴店番線印
『四部合戦状本平家物語全釈　巻十二』
定価 12,100 円（10%税込）　ISBN978-4-7576-1045-3　冊
お名前・ご住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

鎌倉幕府の宗教政策研究に一石を投じる

日本史－中世
鎌倉時代

鎌倉幕府が行った年中行事、あるいは天変や疾病の際に実施していた祈禱の特徴について整理し、摂関家との比較を踏まえ一権門としての鎌倉幕府の性格を確認した。

また、鎌倉幕府の儀礼がどのように運営されたかを多面的に分析するため、儀礼の場を重視した鎌倉殿と、儀礼に関係する御家人たちの意欲・経済状態といった視点からも考察し、鎌倉幕府の宗教政策を闡明にした。

定価 6,820 円（10%税込）
（本体 6,200 円）
A5 上製・288 頁
2022 年 4 月下旬刊行
日本史研究叢刊 41

竹ヶ原康弘 著

鎌倉殿祭祀の歴史的研究

鎌倉幕府の将軍と家政

序　文　　追塩千尋
はじめに
序論
第一節　本書の課題／第二節　先行研究と本書の立場／第三節　本書で使用する史料について／第四節　本書の構成
第一編　鎌倉幕府初期の鎌倉殿と鎌倉殿祭祀
第一章　源頼朝挙兵前後の鎌倉殿家祭祀
第一節　鶴岡八幡宮の整備と祖廟／第二節　鎌倉幕府儀礼の整備と円暁／結　義経への対応と祈禱
第二章　源頼朝期における鎌倉幕府祭祀創出
第一節　頼朝の上洛と祖廟／第二節　鎌倉幕府における年中行事／第三節　文治五（一一八九）年鶴岡八幡宮放生会
第三章　頼朝後の鎌倉幕府祭祀
第一節　頼家期の祭祀について／第二節　実朝期の鎌倉幕府年中行事
付章　鎌倉幕府における平癒祈願祈禱
序／第一節　源実朝期までの疾病への対策／第二節　鎌倉における疾病への対応／結
第二編　鎌倉幕府中期の鎌倉殿と鎌倉殿祭祀
第一章　九条頼経期の鎌倉幕府祭祀
第一節　本章の課題／第二節　九条頼経と鎌倉幕府の「祭祀」／第三節　（四）期、及び結論
第二章　鎌倉幕府における占断
序／第一節　鎌倉幕府における占の実施／第二節　九条頼経期の占について／第三節　陰陽師間の意見対立／結
第三章　鎌倉幕府の地震観
序／第一節　平安期にみる異変と価値観／第二節　文治元（一一八五）年の地震について／第三節　鎌倉幕府における地震認識／結
第四章　鎌倉幕府における祈雨祈禱
序／第一節　鎌倉期以前の朝廷における祈雨祈禱／第二節　鎌倉幕府における祈雨祈禱の受容／結
第五章　鎌倉幕府における宗教儀礼の受容
序／第一節　雷公風伯祭の実施について／第二節　仁王会の実施と東国国家論について／結
第三編　鎌倉幕府後期の鎌倉殿と鎌倉殿祭祀
第一章　親王将軍期の鎌倉幕府祭祀
序／第一節　親王将軍の官歴、就任・退任／第二節　鎌倉幕府年中行事と親王将軍／結
第二章　鎌倉幕府における御家人の所役拒否
序／第一節　九条頼嗣期までの御家人の所役拒否／第二節　宗尊親王期における御家人の所役拒否／結
付章　説話文学における「貧」―「過差」禁制との関係から―
序／第一節　『今昔物語集』における「貧」／第二節　『沙石集』における「貧」／結
結論
鎌倉幕府における鎌倉殿家政と年中行事
序／第一節　源氏将軍期の鎌倉幕府年中行事と家政／第二節　摂家将軍・親王将軍期の鎌倉幕府年中行事／結
おわりに
あとがき

竹ヶ原康弘（たけがはら　やすひろ）
二〇〇六年　北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻博士（後期）課程単位取得退学
現在、北海道教育大学釧路校非常勤講師。博士（文学）
専攻　日本古代・中世仏教史
主要論文　鎌倉幕府における鎌倉殿家政と年中行事（『年報新人文学』第十二号）／『沙石集』における漢籍由来の説話について（『解釈』第六三巻　九・十号）／『私聚百因縁集』唐土篇における説話の採録（『解釈』第六五巻　九・十号）

注文書
貴店番線印
『鎌倉殿祭祀の歴史的研究―鎌倉幕府の将軍と家政―』
定価 6,820 円 (10% 税込)　ISBN 978-4-7576-1028-6
冊
お名前・御住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL　06-6771-1467
FAX　06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

巧妙に織りなされた文脈から
『吾妻鏡』の歴史叙述を読み解く

日本史・日本文学
―中世

『吾妻鏡』の合戦叙述と〈歴史〉構築

藪本勝治 著

定価 6,600 円 (10%税込)
(本体 6,000 円)
A5 上製・328 頁
2022 年 8 月上旬刊行
日本史研究叢刊 44

『吾妻鏡』は、鎌倉時代の東国を活写する稀有な史料であり、また幕府を支えた家々の勲功譚の集合体でもある。しかし、政治的意図をもって編纂された『吾妻鏡』の記述は、単なる事実の記録ではなく、編纂時点から過去を語り直そうとする歴史叙述として読み直されねばならない。

どのような構想と方法で、幕府の〈歴史〉を構築しているのか。巧妙に織りなされた文脈を読み解くことにより、合戦叙述を軸に忠臣たちの活躍と神仏の加護を描いて頼朝・泰時・時頼の絶対性を語る、軍記物語としての相貌を明らかにする。

【内容目次】

序章　『吾妻鏡』と〈歴史〉の構築
一「北条氏の為に曲筆す」――近世～明治期の研究史／二 歴史叙述としての再把握――近現代の研究史／三 合戦叙述による〈歴史〉構築――本書の企図／四 本書の概要

Ⅰ　頼朝と忠臣たちの関東草創

第一章　令旨到来――冒頭部の構成とレトリック
一 引用の織物と読者――冒頭部解釈の課題／二『平家物語』との関連――冒頭部本文の組成／三『吾妻鏡』のレトリック――言葉の配置と演出効果

第二章　関東草創――頼朝の貴種流離譚と忠臣たち
はじめに――『吾妻鏡』と貴種流離譚／一「世になし源氏の流人」――真名本『曽我物語』／二「貴種再興之秋」――『吾妻鏡』の頼朝挙兵／三「須以司馬為父」――千葉氏による頼朝歓待の物語／四「独残留伊豆山」――北条政子と伊豆山の枠物語／おわりに――歴史叙述としての『吾妻鏡』

補説1　「貴種流離譚」とは何か――利己と歓待の文学史
はじめに――『義経記』の相貌／一「貴種流離譚」――折口信夫／二「流され王」――柳田国男／三「〈常民型〉の貴種流離譚」――被来訪者という視座／四《異人歓待》――利己的な語り手たち／おわりに

第三章　野木宮合戦――北関東支配の起源
はじめに／一 諸文献の野木宮合戦と先行研究／二『吾妻鏡』の〈歴史〉構築／三 小山／足利の物語／おわりに

第四章　奥州合戦――奥州支配の起源
はじめに／一 軍記物語の構造と反逆鎮圧の論理／二 阿津賀志山合戦における忠臣の活躍／三 軍記物語の類型表現／四 秩序の回復と王権強化の象徴的表現／五 神仏の加護と北条氏の助力／おわりに

Ⅱ　北条得宗家による政道継承

第五章　和田合戦――実朝と泰時の政道継承
はじめに／一 泰時・頼家・実朝／二 合戦の発端と戦闘の叙述／三 実朝と泰時の位置付け／おわりに

第六章　実朝暗殺――『吾妻鏡』の編集方法と成立背景
はじめに／一 実朝像の変容／二 実朝暗殺の予兆記事群／三 北条義時の生還と後日談／四〈大倉薬師堂縁起〉と『覚園寺縁起』／五 北条貞時の「徳政」と『吾妻鏡』編纂／おわりに

第七章　承久の乱――盟主泰時の誕生
はじめに――〈歴史〉を構築する『吾妻鏡』／一 承久の乱記事群の枠組み／二〈英雄〉泰時の出陣／三〈明君〉泰時の渡河／四〈盟主〉泰時の誕生／おわりに

補説2　承久の乱はいかに語られてきたか――過去像の変容と更新
はじめに／一 現在における承久の乱の評価／二 鎌倉時代前期――政治史的定位の困難／三 鎌倉時代後期――冥慮の論理による〈歴史〉構築／四 南北朝期以降――後醍醐天皇による討幕の参照枠／五 近世・近代――徳川幕府打倒の参照枠／六 戦後――階級闘争史観の投影

第八章　宝治合戦――家々の〈歴史〉の交差点
はじめに／一 反逆者としての三浦氏／二 冥加の招来／三 忠臣としての安達氏／四 摂家将軍の位置付け／五 時頼の絶対性の物語／おわりに

終章　『吾妻鏡』後半の歴史叙述
はじめに――『吾妻鏡』の全体像と後半部分／一 理想的執権の事績――泰時時代の徳政とレガシー／二 後鳥羽院の怨霊と寛元の政変――時頼時代における危機の朧化①／三 建長の政変――時頼時代における危機の朧化②／四 隆弁と時宗誕生――得宗家正統の絶対性／おわりに――宗尊親王の帰洛と『吾妻鏡』の擱筆

初出一覧／あとがき／『吾妻鏡』記事索引

（やぶもと かつはる）
灘中学校・高等学校教諭。
博士（文学）。
主著：『義経記　権威と逸脱の力学』（和泉書院、2015 年）

注文書

貴店番線印

『『吾妻鏡』の合戦叙述と〈歴史〉構築』
定価 6,600 円 (10% 税込)　ISBN 978-4-7576-1043-9
冊

お名前・御住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

無住の著作全体を通覧し得る初の索引

日本文学－中世
日本史－中世

無住の著作総合索引

追塩千尋 編著

おいしお ちひろ
博士（文学）　現在 北海学園大学名誉教授
専攻　日本古代・中世仏教史
著書　『日本中世の説話と仏教』『中世説話の宗教世界』（以上、和泉書院）
『中世の南都仏教』『中世南都の僧侶と寺院』『中世南都仏教の展開』
（以上、吉川弘文館）

定価 3,850 円（10%税込）
(本体 3,500 円)
四六上製・128 頁
2021 年 12 月上旬刊行
和泉選書 194

人名編をはじめとした
９編目からなる無住の
４著作（沙石集、雑談集、聖財集、妻鏡）の総合索引。
著作ごとの個別索引とは異なり、全体を通覧し得る点で無住の伝記及び思想・宗教の全体像を探るために有益である。

４著作の内、『妻鏡』を無住作とすることには疑いがもたれている。ただ、今後無住作であることが否定されたとしても、それなりの使用法があると思い、本書では無住作として扱った。
また、無住の研究において『沙石集』の索引は散見されるが、他の３著作も含めた索引は本書が初めてであろう。

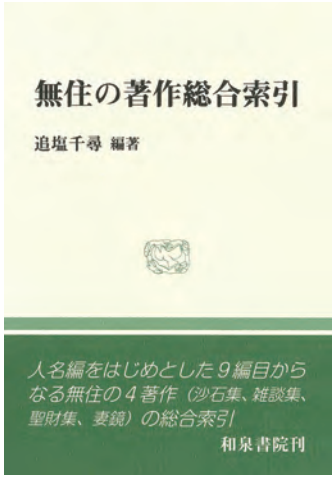
〈組 見 本〉

後鳥羽院[院、隠岐ノ御所、後鳥羽、
後鳥羽法皇、尊成天皇] 沙249
(12), 477(上10), 489(上6)
院　沙477(上13)／雑118(7)
隠岐ノ御所　沙282(5, 10, 11)
後鳥羽　沙476(下21)／雑279(5)
後鳥羽法皇　妻174(4)
尊成天皇　妻177(15)

「後鳥羽院」は『**沙石集**』（日本古典文学大系本）の 249 頁 12 行目にあることを示す。
また、「院」は『**雑談集**』（山田昭全・三木紀人校註、三弥井書店、1973 年）の 118 頁 7 行目にあることを示す。
『**妻鏡**』は宮坂宥勝校註日本古典文学大系 83『仮名法語集』収録（岩波書店、1964 年）
『**聖財集**』は寛永二十年〈1643〉の整版本、影印は『史料と研究』16 号（1986 年 5 月）に掲載。

〈内 容 目 次〉

Ⅰ 人名編
1、日本　2、中国　3、インド
4、朝鮮　5、不明・その他
Ⅱ 神仏、異形・異類編
Ⅲ 寺社名編
1、日本（寺院）　2、中国（寺院）
3、インド（寺院）　4、神社
Ⅳ 地名・建築物・王朝名編
1、日本　2、中国　3、朝鮮
4、インド　5、その他
Ⅴ 書名・経典名・陀羅尼呪編
Ⅵ 和歌・連歌初句索引編
Ⅶ 動物編
1、魚　2、虫　3、禽
4、獣　5、その他
Ⅷ 年号編
Ⅸ 無住の年齢編
付表〈無住の著作にみる日本の政治的諸事件表〉



注文書

貴店番線印

『無住の著作総合索引』
定価 3,850 円 (10% 税込)　ISBN 978-4-7576-1015-6　冊

お名前・御住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508

和泉書院
☆新刊のご案内☆

全6巻完結

能楽研究・中世文学研究の泰斗
伊藤正義先生の業績を精選集成

日本文学―中世
能・狂言

定価 16,500円（10%税込）（本体 15,000円）
A5上製函入 560頁　2022年10月刊

伊藤正義中世文華論集
第四巻　文学史と思想史の間

片桐洋一・信多純一・天野文雄 監修
阿部泰郎・寺島修一 編

第六回（最終回）配本

著者が先鞭をつけた「中世日本紀」研究に、幸若舞研究、宴曲研究などを加え、中世の文芸文化に底流する思想に迫る。

―内容目次―

凡例

一　中世日本紀
中世日本紀の輪郭―『太平記』における卜部兼員説をめぐって―／九世戸縁起―謡曲《九世戸》の背景―／慈童説話考／日本記一　神代巻取意文／熱田の深秘―中世日本紀私注―／続・熱田の深秘―資料『神祇官』―／了誉伝稿

二　文学史彷徨
花と中世思想／東山時代の文芸文化／心敬・禅竹／仮構の伝記―中世の人丸―／大和宗怨小伝／壬生寺縁起／幸若舞曲についての覚書二、三／中世文学研究への提言―学界展望・中世　昭和五十五年―／文献調査とその資料性―西教寺・正教蔵本をめぐって―／能楽学会の発足に寄せて―能楽研究と文学史研究―

三　宴曲を読む
『宴曲集』巻第一「春」を読む／同「春野遊」を読む／同「花」を読む／同「夏」を読む／同「郭公」を読む

◎収録論文初出一覧　◎補注
◎解説…本巻編者／資料から立ち上がる文学史・思想史―〈伊藤学〉の神髄―　三木雅博／金春流七十六世七郎広運関係書状二点について―伊藤正義先生との調査行―　天野文雄
◎索引（人名・書名・曲名）
〈月報〉　鶴崎裕雄・天野文雄・阿部泰郎・寺島修一

著者紹介　伊藤正義（いとう・まさよし）
昭和5年神戸市生まれ。大阪市立大学名誉教授、神戸女子大学名誉教授。著書に『謡曲入門』（講談社学術文庫）、新潮日本古典集成『謡曲集』ほか。第10回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。平成21年12月、逝去。

注文書

『伊藤正義中世文華論集 第四巻』
定価 16,500円（10%税込）　ISBN978-4-7576-1040-8　冊

お名前・御住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508

巻数指定注文

第一巻　謡と能の世界（上）
2012年6月刊　定価 15,400円（10%税込）
ISBN978-4-7576-0624-1　冊

第二巻　謡と能の世界（下）
2013年11月刊　定価 17,600円（10%税込）
ISBN978-4-7576-0691-3　冊

第三巻　金春禅竹の研究
2016年1月刊　定価 16,500円（10%税込）
ISBN978-4-7576-0751-4　冊

第四巻　文学史と思想史の間
2022年10月刊　定価 16,500円（10%税込）
ISBN978-4-7576-1040-8　冊

第五巻　中世文華とその資料（上）
2020年8月刊　定価 16,500円（10%税込）
ISBN978-4-7576-0960-0　冊

第六巻　中世文華とその資料（下）
2021年5月刊　定価 16,500円（10%税込）
ISBN978-4-7576-0999-0　冊

セット注文
全6巻
揃定価 99,000円（10%税込）
セット

和泉書院
☆新刊のご案内☆

日本音楽史研究の最前線

歴史学——
日本音楽史

定価 16,500 円（10%税込）
（本体 15,000 円）
A5 上製・866 頁＋口絵 2 頁
2022 年 7 月中旬刊行
日本史研究叢刊 42

歴史学としての日本音楽史研究

福島和夫
上野学園大学日本音楽史研究所 編

「日本音楽史は歴史学に位置づけ歴史学の方法論によって研究すべきである」

上野学園大学日本音楽史研究所長福島和夫が半世紀間にわたって提唱しつづけてきたことである。史料を対象とし、史料批判を経て歴史を再構成する。そうした史学の方法論によった着実な成果が近年充実してきている。

本書第一部はその実践例。現在の日本音楽史研究を担う主要な研究者による成果として、日本雅楽の淵源である唐代音楽から明治維新までのほぼ全時代を網羅する論文、座談会「日本音楽史研究の現在」を掲載。第二部には福島和夫の新旧の論文および日本音楽史研究所蔵「箏相承系図」翻刻やコラム等を収める。

【内容目次】

緒言　新井弘順

第一部　論文編

唐代音楽史研究三題（翻訳）　王小盾・山寺三知（翻訳）
唐代音樂史研究三題（原文・中国語）　王　小盾
『隋書』「音樂志」開皇楽議に見える「三聲並戻」の解釈をめぐって　山寺三知
正倉院文書紙背「琵琶譜」、いわゆる『天平琵琶譜』に関する一考察　スティーヴン・G・ネルソン
初期雅楽寮と古代の外交
—雅楽寮は漸次縮小したか—
『栄花物語』第十七「おむがく」の巻をめぐって　櫻井利佳
源政長伝攷—楽譜と伝領—　磯　水絵
古代における説経の構成と歴史　飯島一彦
天皇の「楽器始」に関する考察　荻美津夫
今橋家の衰滅　豊永聡美
二世常磐津兼太夫における伝記の再検討　末柄　豊
明治維新後の東京における舞楽上演をめぐって　竹内有一
聲明の再発見と大般若転読会　塚原康子
【座談会】日本音楽史研究の現在　新井弘順
飯島一彦・磯水絵・岩佐美代子・福島和夫

第二部　福島和夫の日本音楽史研究

一　日本音楽史研究と芸能史
〔コラム〕空爆下の《第九》演奏
二　研究史における『日本音楽史』
三　雅楽の変遷—古の音色を求めて—
〔コラム〕築地小劇場《春香伝》
四　雅楽の史料をめぐって
五　揩鼓に牽かれて
六　西域伝来の楽器〈答臘鼓〉又は〈揩鼓〉考
七　興福寺と雅楽
（第三〇九回興福寺佛教文化講座要旨講演録）
八　華厳会楽舞関係史料考—東大寺文書一六通—
九　『続群書類従』所収音楽相承系図の問題点
十　音楽史の特殊な「ことば」
十一　（書評）エリザベス・マーカム著『催馬楽—平安時代の宮廷歌謡—』
十二　中世楽人気質
—楽人・侍・京童・寵童・強盗・荘名主—
十三　永禄七年金剛又兵衛康季節付謡本考
影印・覚書
〔コラム〕「現代音楽」と「日本」との出会い
—講演「能と日本の音楽」について—　飯島一彦
十四　読み書きそろばんと小謡
十五　幕末の洋式鼓笛譜
十六　国歌《君が代》並びに国歌《御民われ》
—明治九年天長節奏楽の事—
十七　（史料点描）『楽事記』堀川久民父子記
—明治期の京都における雅楽関係記録—
十八　箏相承系図　応永十一年仮名暦紙背　翻刻・解題
付録　福島和夫業績目録／第二部　初出一覧
英文目次・英文要旨　スティーヴン・G・ネルソン訳

注文書
貴店番線印
『歴史学としての日本音楽史研究』
定価 16,500 円 (10% 税込)　ISBN 978-4-7576-1033-0　冊
お名前・御住所・TEL

図書出版　和泉書院
〒543-0037
大阪市天王寺区上之宮町 7-6
TEL 06-6771-1467
FAX 06-6771-1508